九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第6巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

https://doi.org/10.15017/17972

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 6, 2010-03. TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

11.　おわりに

臨床現場へ遠隔医療を！

2010 年 3 月、まだ雪の残るカナダのエドモントンに来ています。ここアルバータ大学は、カナダで最初に遠隔医療が進んだ大学です。九州大学がある福岡県出身の Masako Miyazaki 准教授が 1996 年に遠隔医療を進めた場所であり、2010 年には TEMDEC のネットワークに接続する予定です。またここでは、3D 画像による Web 網膜診断システムでカメルーン・コンゴなどアフリカを含めた世界中の病院への網膜診断サービスを日常的に行っている眼科医 Dr. Matt Tennant にシステムを見せていただきました。このように世界中に遠隔医療の仲間が出来始めています。

「遠隔医療」が日本の国策として現れたのは、内容的には e-Japan 戦略Ⅱ（2003 年）からでしょう。ちょうど TEMDEC がその活動を開始した年です。その後 IT 政策パッケージ 2005 で明確に「遠隔医療の推進」が謳われ、IT 新改革戦略(2006 年)、今年度（2009 年度）の i-Japan 戦略 2015 まで受け継がれています。自民党から民主党への政権交代により各種政策の見直しが急がれていますが i-Japan 戦略 2015 は基本的には両党合意の元に進められていますので、国策としての遠隔医療の推進は不変の方針でしょう。

一方で、日本国内の臨床現場での遠隔医療導入はどうでしょうか？「限界集落」なるお年寄りのみの居住する僻地が増加し、医師の都市偏在が指摘されています。離島・僻地にもブロードバンドネットワークが敷設されていますが、放射線診断領域と病理診断領域を除いた遠隔医療は、いまだ研究の、あるいはボランティの範囲を出ず、広範な広がりを見ていません。

診療全体を遠隔医療で完結できることなどあり得ません。日常の診療の中で、遠隔医療が必要な患者に必要な時にだけ便利が良い遠隔医療システムを使えて、しかも作業量に応じた報酬が払われる、という仕組みが必要です。遠隔医療教育によって医療側のスキルを上げることは非常に重要です。同時に我々は、この技術、ネットワーク、および情熱をもっと患者への医療サービスに活用することを進めていかなければなりません。

春の近いロッキー山脈を見ながら、決して急がず、しかし確実に進むことが必要だと感じています。

平成 22 年 3 月

九州大学病院　アジア遠隔医療開発センター
中島直樹